

環境農業新聞

メール:ecoagri-na@sweet.ocn.ne.jp

主な記事

- 〇…京都でシンポジウム……(1面)
〇…A Iロボット選別機……(2面)
〇…農政審答申にガッカリ……(3面)
〇…エコカーボンクロス開発……(4面)

日本豊受 自然農

第9回日本の食と農業を考えるシンポジウム「6月7日

土と腸は大事!

~土壌菌と腸内細菌は同じだ~

由井寅子代表
テーマについて語る
京都リサーチパークで開催



由井代表

日本豊受自然農主催の第9回「日本の食と農業を考えるシンポジウム」は6月7日(日)、京都リサーチパーク パスホールにおいて「土と腸は大事!」をテーマに開催され、C H H o m東京校にライブ中継。新型コロナウイルス対応で在宅F C聴講可能な配信中心と聞く。日本豊受自然農は、北海道洞爺と静岡県南村において自然農を行い、農産物、ハーブなどを生産、また、味噌、醤油などの加工品や農産物から抽出した化粧品などを開発・販売している。日本豊受自然農の由井寅子代表は開催にあたり次のように述べている。(編集委員)

栄養ある野菜や穀類を搾り、残渣・米ぬかなどを搾ったものを中心にした自然型と思えます。それには自然農に反することが重要で、自然な種を使い、土壌菌が育つよう、落ち葉・食物

残さず、米ぬかなどを搾り、残渣を中心に自然型と思えます。それには自然農に反することが重要で、自然な種を使い、土壌菌が育つよう、落ち葉・食物

大震災の被災地を回りまわした。そのとき一番重要なのは、水と安心安全、栄養のある食糧であることを感じました。しかし、そのためには食の元となる日本の農業の復興から取り組むことが必要で、それがために、農業に参入することを決意し、静岡県南村に農地を取得した経緯があります。そして、古来より大自

然に畏敬と感謝の念を持つ日本人の心のよさと、そのよさを農業を復興したいと思ひ、五穀豊穡、農業と食の神様でもあり伊勢神宮の外宮でもあり豊受大神様から御名前をお借りし、社名も日本豊受自然農として取り組んでおります。

一方で、日本における安心安全な農業と食の安定供給、そしてそこからつながる健康や幸せ、環境との共生を実現するためには、一人の活動では限界があるため、農業や食の問題を社会に広く問いかけ、衆知を集め、解決策を提示することが

不可欠と考えます。そのために、「日本の食と農業を考えるシンポジウム」を2012年春から毎年欠かさず開催し、今回第9回目となります。毎回、農業や食、そこからつながる健康や環境の問題解決に志をもつ講師を偏見や予断なく招聘しております。

今年大会は、「土と腸は大事!」をテーマとし、人間の腸内細菌は同じだ!」をテーマとして開催いたします。7月7日(日)に京都リサーチパーク パスホールにて開催いたします。

このテーマを掲げ、私自身も、英国で難病の潰瘍性大腸炎に

倒れ死にかけた経験をもち、当時偶然と縁をいただいた欧州の自然療法と、土の土壌菌を生かした腸にやさしいオーガニックな野菜のお陰で命を救われました。

以来、土と腸は関連しており、例えば土壌菌と腸内細菌には似た働きがあるのではないかと考え、土壌菌が喜ぶ自然型農業によって作られた作物や土壌菌の働きを生かした食づくりが、私たちの腸や腸内細菌、ひいては心と体の健康にとっても大切ではないかと考えるに至りました。

実際、腸内細菌は免疫の大部分を担っています。が、人間の幸せ感、やる気を左右する腸内物質として知られるセロトニンやドーパミンが、腸内よりも腸内細菌によりつくられることが知られています。このセロトニンやドーパミンは、腸内細菌によりつくられることが知られています。

もうひとつ、腸内細菌の研究に携わってこられた山谷雅和先生には、「生命食・微生物が支える健康」をテーマに、自然療法で正食料理研究家の野口清美先生には、「腸内細菌がよくなる正しい食事・土地柄や季節に合った伝統食の大切さ」をテーマに、東昭史先生は「日本の花からつくられたフラワーエッセンスによる癒し」をテーマに各々発表いただく予定です。

また前日土曜日も時から、プレイベントとして、高野弘之先生、酒向猛先生、そして会場の皆さんと日本豊受自然農の様々な食品を試食・試飲しながら、農業や食の安全確保や健康の問題を本音で語り合うトークイベントを行いたいと思っております。又、健康を取り戻した方々の体験談なども参考に、参加される皆様とご一緒に、人類にとってもっとも大事な食と農業と健康に向けて解決策を発信できるように大会をつくりあげたいと思っております。

現在、登壇が決まっております。発表者としては、抗生物質の使用が腸や健康全体に与える影響なども含め自然派医師、豊受クリニック院長の高野弘之先生は「腸を味方にする食べ方と医療」をテーマに、血液は主に腸からつくられる干島学説の研究実践家として臨床に取り組まれている統合医療の医師の酒向猛先生には「腸こそ免疫の要」「腸活」で健康に生きよ

う」をテーマに、また土壌菌などの微生物の研究に携わってこられた山谷雅和先生には「生命食・微生物が支える健康」をテーマに、自然療法で正食料理研究家の野口清美先生には「腸内細菌がよくなる正しい食事・土地柄や季節に合った伝統食の大切さ」をテーマに、東昭史先生は「日本の花からつくられたフラワーエッセンスによる癒し」をテーマに各々発表いただく予定です。

また前日土曜日も時から、プレイベントとして、高野弘之先生、酒向猛先生、そして会場の皆さんと日本豊受自然農の様々な食品を試食・試飲しながら、農業や食の安全確保や健康の問題を本音で語り合うトークイベントを行いたいと思っております。又、健康を取り戻した方々の体験談なども参考に、参加される皆様とご一緒に、人類にとってもっとも大事な食と農業と健康に向けて解決策を発信できるように大会をつくりあげたいと思っております。

現在、登壇が決まっております。発表者としては、抗生物質の使用が腸や健康全体に与える影響なども含め自然派医師、豊受クリニック院長の高野弘之先生は「腸を味方にする食べ方と医療」をテーマに、血液は主に腸からつくられる干島学説の研究実践家として臨床に取り組まれている統合医療の医師の酒向猛先生には「腸こそ免疫の要」「腸活」で健康に生きよ



毎回、大勢の人が参加するシンポジウム



高野医師

新型コロナウイルス感染症は世界中を混乱に陥れ、多くの人々を恐怖と不安に引き摺り込んでしまいましたが、現代医学が「ウイルス怖い、菌イヤだ」という発想を原則としていたために、必要

以上に恐れが生じるおそれ、多くの人が増えることのできる大切な味方の菌まで損なってしまう免疫力を落とすという本末転倒な事態になっていきます。

以上を恐れが生じるおそれ、多くの人が増えることのできる大切な味方の菌まで損なってしまう免疫力を落とすという本末転倒な事態になっていきます。

高野弘之氏の略歴 医療法人社団 豊受会 豊受クリニック院長 1971年11月8日生まれ 長崎県佐世保市出身

高野弘之氏の略歴 医療法人社団 豊受会 豊受クリニック院長 1971年11月8日生まれ 長崎県佐世保市出身

参加費等詳細は、日本豊受自然農 東京事務所 03-5797-3337 1又は大会特設サイト参照 https://toyookk e.com/kyoto2020/

重要なシンポジウムに参加を
過剰な殺菌・除菌
免疫力を落とす
内なるドク 高野弘之医師
TAIを説く

外出自来や首都圏の可能性に向けて買い占められるのはカップラーメンやレトルト食品やパンや菓子。そのようなものを常食すれば病気に罹りやすくなり重症化しやすいものには目を覚まして、その点を指摘する人はあまり居ません。

このような時勢であるからこそ、これまで以上に自分で乗り切る能力(治る力)であれ食物の確保であれを養っておくことが肝要になってきます。今後新たなウイルスが発生しないとも限りませんが、薬やワクチンに頼らざるを得ない

今年度の農業シンポジウムは、新たな転換点を迎えた日本が進むべき方向を考へるうえで非常に役に立つ内容になると思っておりますので皆様ぜひ御参加ください。

高野弘之氏の略歴 医療法人社団 豊受会 豊受クリニック院長 1971年11月8日生まれ 長崎県佐世保市出身

参加費等詳細は、日本豊受自然農 東京事務所 03-5797-3337 1又は大会特設サイト参照 https://toyookk e.com/kyoto2020/